

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
国語科	現代の国語	2単位	1年次	必修
教科書	現代の国語(数研出版)			
副教材等	イラストとネットワーキングで覚える現代文単語改訂版(いいずな書店)、三訂版学習のポイントが見えるよむナビ現代文1基礎編(いいずな書房)			
① 科目の目標(学習指導要領)				
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に着けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	A「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」、C「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	各検査等状況の80%以上	各検査等状況の30%以上	各検査等状況の30%未満
②思考力 表現力	各活動内容の80%以上	各活動内容の30%以上	各活動内容の30%未満
③主体的に学習に取り組む態度	提出物状況・授業への参加 80%以上	提出物状況・授業への参加 30%以上	提出物状況・授業への参加 30%未満

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	教材名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目				評価のポイント(規準)
					①	②	③	④	
4	内容や構成、論理の展開を捉え、文章の要旨を把握しよう	社会と文化「水の東西」	・語句の意味、用法を的確に理解する。 ・筆者の意図を捉え、文章の要旨を把握する。 ・本文の内容を的確に要約する。	4	○		○	○	・単元の学習内容を理解し、粘り強く取り組み、課題に沿って活動している。(主体的に学習に取り組む態度) ・グループ学習を通して、設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
5	文章を読み、自分の意見や考えを論述しよう	意見と主張「社会のゆくえ」	・語句の意味、用法を的確に理解する。 ・筆者の定義づけや問題意識を中心に読解する。 ・文章構成に注意しつつ意見文を書く。 ・意見文を読み合い相互に評価する。	6	○	○	○		・単元の学習内容を理解し、粘り強く取り組み、課題に沿って活動している。(主体的に学習に取り組む態度) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
5 6	表紙・表現のルールを理解し、読み手に分かりやすい文章を書く	実用文「コミュニケーションの手段を考える」	・「非言語コミュニケーション」の内容を要約する。 ・表紙や表現のルールを確認しながら意見文を書く。 ・発表と相互評価を行う。	10	○	○	○		・単元の学習内容を理解し、粘り強く取り組み、課題に沿って活動している。(主体的に学習に取り組む態度) ・企画書やポスター等の制作において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
7	文書やポスターで相手に必要な情報を的確に伝えよう	解説を述べる「事実なのか虚構なのか」	・目的に合わせて表現を工夫し、文書やポスターなど、伝わりやすい制作物の作成を目指す。 ・文章や論理的表現の型を学び、自己の表現に活用する。	6	○	○	○		・単元の学習内容を理解し、粘り強く取り組み、課題に沿って活動している。(主体的に学習に取り組む態度) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
8 9	資料や機器を効果的に用いて、本を紹介するポスターを作成しよう	本のポップ作成(本のポップ 過去の作品資料) 他	・ポップの作例を調べ、紹介する本を選定する。 ・見出しや照会文、イラストなどを交えポップを作成する。 ・完成したポップを展示し、相互鑑賞と評価を行う。	12	○	○	○		・文章やイラストの工夫など、作品制作への真摯な取り組みが見られる。(主体的に学習に取り組む態度) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
10	内容や構成、論理の展開を捉え、論理構成を図にまとめよう	ことばの働き「ものことば」	・語句の意味、用法を的確に理解する。 ・作品の内容を捉え、論理構成を図にまとめる。 ・本文の内容を的確に要約する。	4	○		○	○	・単元の学習内容を理解し、粘り強く取り組み、課題に沿って活動している。(主体的に学習に取り組む態度) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
10 11	必要な情報を収集・整理して、わかりやすくポスターにまとめよう	ことばの働き「ものことば」	・筆者の問題意識に関わる事例を調べ、その背景にある言語ごとの特色を確認する。 ・調べた内容をわかりやすくポスターにまとめ、発表用の原稿を準備する。 ・準備した制作物をもとに発表と相互評価を行う。	6	○	○	○		・単元の学習内容を理解し、粘り強く取り組み、課題に沿って活動している。(主体的に学習に取り組む態度) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
11 12	自分の立場や相手に応じて話し方を工夫しよう	言語技術の実践「ディベート・討論(授業・部活で楽しむ即興型ディベート[日本語])」 他	・「コンセンサスゲーム」を体験し、話し合いのルールや意思決定の背景にある考え方を理解する。 ・ディベートの形式や流れ、各自の役割を理解する。	10		○			・話し合いのルールや留意点を理解して実践しようとするなど、授業への真摯な取り組みが見られる。(主体的に学習に取り組む態度) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
1 2 3	聞き取った内容を正しく要約し、論点に対応した反論を返答しよう	言語技術の実践「ディベート・討論(授業・部活で楽しむ即興型ディベート[日本語])」 他	・相手の発言を正確に理解し、要約する練習を行う。 ・要約した意見に対して適切な反論を構成し、発言する練習を行う。 ・テーマに対して高低側と否定側を入れ替えながら、要約と反論を一連の流れとして発言する練習を行う。 ・グループを解体し、振り返りと自己評価を行う。	10	○	○		○	・立論への積極的参加やディベートにおける役割の実行など、授業への真摯な取り組みが見られる。(主体的に学習に取り組む態度) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)
6 10 1	本文と設問の関係を意識しながら読みを深めよう	(模試過去問・読むナビ)	・語句の意味、用法を的確に理解する。 ・文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。 ・本文に対して設問が何を求めているかを理解しつつ適切な解答を選んだり作成する。	2	○		○	○	・問題に対し、真摯な取り組みが見られる。(主体的に学習に取り組む態度) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
国語科	言語文化	2単位	1年次	必修
教科書	言語文化(数研出版)(言文707)			
副教材等	みるみる覚える古文単語300+30(いいずな書店)、新修古典文法二訂版(啓隆社)、漢文必携五訂版(桐原書店)、三訂版よむび古典(いいずな書店)			
① 科目の目標(学習指導要領)				
国語の知識や技能を身につけ、言語文化に対する理解を深めるとともに、ものの見方や感じ方を深め、人生を豊かにする能力の向上を目指す。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
語句や表現技法の知識を増やし、文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにする	A「書くこと」において、表現したいことを明確にし、効果的に伝えるように表現の仕方を工夫する。	語句や表現技法の知識を増やし、文化的背景について理解を深めようとし、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしようとする。
時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	B「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深めようとし、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めようとする。
		表現したいことを明確にし、効果的に伝えるように表現の仕方を工夫しようとする。
		作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。 確認テスト等 概ね85%程度	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることができた。 確認テスト等概ね50%以上	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能が身につかず、我が国の言語文化に対する理解も深まらなかった。 確認テスト等概ね40%以下
②思考力 表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 確認テスト等概ね85%程度	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを表現できるようにしている。 確認テスト等概ね50%以上	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、考える力や共感したり想像したりする力を伸ばすことができず、自分の思いや考えをうまく表現することができなかった。確認テスト等概ね40%以下
③学びに向かう力	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典作品を読んだり、読書に親しんだりする等、言葉を効果的に使おうとしている。	言葉を通じて他者や社会に関わったり、言葉がもつ価値への認識をしようとしているとともに、読書や古典作品に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	言葉を通じて他者に関わったり、思いや考えを広げようとしているが、言葉がもつ価値への認識を深めることはせずに、効果的に言葉を使おうと工夫する機会が少なかった。

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			③	評価のポイント(規準)
				①	②			
					A	B		
4・5	古文読解 「古文入門」 「宇治拾遺物語」 一虎のそら寝 「古典文法」 一動詞の活用 「漢文入門 一、二」	・語句の意味、用法を的確に理解する。 (知・技) ・作品の内容や解釈を踏まえ自身の考えをまとめる。(思・表)	26	○	○	○	・問題集やノート等、授業への真摯な取り組みが見られる。(学びに向かう力) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)	
					26			
6・7	「つれづれなるまゝに」 「丹波に出家といふ所あり」 「漁夫之利」 「故事成語の用例」 単語小テスト	・語句の意味、用法を的確に理解する。 (知・技) ・作品の内容や解釈を踏まえ自身の考えをまとめる。(思・表)	15	○	○	○	・問題集やノート等、授業への真摯な取り組みが見られる。(学びに向かう力) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)	
					15			
8 9 10	「狐借虎威」 「芥川」 「鶏口牛後」	・語句の意味、用法を的確に理解する。 (知・技) ・作品の内容や解釈を踏まえ自身の考えをまとめる。(思・表)	20	○	○	○	・問題集やノート等、授業への真摯な取り組みが見られる。(学びに向かう力) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(知識・技能) ・意見文や創作等の演習において、内容を理解し、自身の考えが効果的に伝わるように工夫されている。(思考力・表現力)	
					20			
11 12	「竹取物語」 「漢詩」 今年の漢字を予想しよう	・自身の伝えたい内容を効果的に表現する。(思・表)	5	○		○	・言葉遊びを楽しみ、作品を完成させる。(学びに向かう力) ・言葉の吟味を行い、創意工夫された作品を作成する。(思考力・表現力)	
					5			
1 2 3	「土佐日記」 短歌・俳句 問題演習 (読むナビ古典)	・語句の意味、用法を的確に理解する。 (知・技) ・文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。(思・表)	4	○	○	○	・問題に対し、真摯な取り組みが見られる。(学びに向かう力) ・設問に対して的確な解答を作成できている。(思考・表現)	
					4			

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
数学	数学Ⅰ・数学A	3単位・2単位	1年次	必修
教科書	NEXT数学Ⅰ・NEXT数学A(ともに数研出版)			
副教材等	CONNECT数学Ⅰ＋A(数研出版)			
① 科目の目標(学習指導要領)				
数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解することができた。	事象を数学的に考察する力を身に付けることができた。	課題等への取り組み、提出ができた。
事象を数式化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けることができた。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付けることができた。	授業の予習や準備に対する取り組みができた。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付けることができた。	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができた。	グループワークやペアワーク等への参加に意欲をもって取り組んだ。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	達成率約70%以上	達成率約35%以上	達成率約35%未満
②思考力 表現力	達成率約60%以上	達成率約25%以上	達成率約25%未満
③学びに向かう力	達成率約80%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4	数Ⅰ 1章	1節 式の計算	10	○			○ 整式の加減乗法、因数分解ができる。
5	数と式	2節 実数	8	○			○ 根号や絶対値を含む式の計算ができる。
		3節 1次不等式	8	○	○		○ 1次不等式を解くことができる。
6	数Ⅰ 3章	1節 2次関数とグラフ	11	○	○		○ 平方完成し、グラフを利用できる。
	2次関数	2節 2次関数の値の変化	15	○	○		○ 最大値や最小値を求められる。 条件から2次関数を定められる。 具体的な問題の解決に最大最小を活用できる。
7		3節 2次方程式と2次不等式	12	○	○		○ 2次方程式を解くことができる。 実数解の個数と判別式の関係を理解する。 グラフとx軸の共有点と、判別式の関係を理解する。 2次不等式を解くことができる。 具体的な問題の解決に2次不等式を活用できる。
8	数Ⅰ 2章	集合、命題と条件、命題と証明	10	○	○		○ 図表示などを用いて集合について理解する。 必要十分条件について理解する。 論理的な思考力を身につけ、証明に活用できる。
9	数A 1章	1節 場合の数	15	○	○		○ 図表示などを用いて要素の個数を求められる。 数え上げの法則を活用し、場合の数を求められる。 順列の総数を nPr や階乗を活用して計算できる。
10		2節 確率	20	○	○		○ 組合せの総数を nCr を活用して計算できる。 基本性質を活用し、確率を求められる。 独立試行や反復試行の確率を求められる。 条件付き確率を求められる。
11	数Ⅰ 4章	1節 三角比	15	○	○		○ 正弦、余弦、正接の意味を理解する。 三角比の表を利用できる。 鈍角の三角比の定義を理解する。 三角比の相互関係を活用できる。
	図形と計量	2節 三角形への応用	12	○	○		○ 正弦定理、余弦定理を活用できる。 三角形の面積を求められる。 三角比を空間図形の計量に活用できる。
12	数A 2章	1節 平面図形	17	○	○		○ 各種定理を活用し、辺の長さや角度を求められる。
1		2節 空間図形	6	○		○	○ 中学校で学習した基本的な作図ができる。 空間における直線や平面の位置関係を把握できる。
2	数Ⅰ 5章	データの整理、データの代表値	16	○	○		○ 度数分布表やヒストグラムを用いてデータを整理できる。
	データの分析	データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差、2つの変量の間の関係 データの分析を活用した問題解決 仮説検定の考え方					○ データの代表値について理解する。 箱ひげ図を活用し、データの分布を把握できる。 散布図からデータの相関を捉えることができる。 相関係数を求められる。
3							

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
地理歴史	地理総合	2単位	1	必修
教科書	地理総合 世界に学び地域へつなぐ(二宮書店)			
副教材等	高等地図帳(二宮書店)			
① 科目の目標(学習指導要領)				
(1)地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みを理解すると共に、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を調べまとめる能力を培				
(2)地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関係を多面的・多角的に考察したり課題の解決に向けて構想したりする力や、構想・考察したことを効果的に説明したり議論し				
(3)地理に関わる諸事情について、課題を主体的に追求し解決する態度を養うと共に、日本国民としての自覚や国土に対する愛情、世界の諸地域の生活文化を尊重することに対				

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
- 様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解できているか。 - 地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性について理解できているか。 - 様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、収集しまとめる基礎的な技能を身に付けているか。	- 位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現できているか。 - 地図や地理情報システムについての目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現できているか。	- 課題等への取り組み状況、提出物の提出状況や内容。 - ペアワークやグループワーク等への参加に対する状況。
- 世界の人々の特色ある生活文化が多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解できているか。 - 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解できているか。	世界の人々の生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現できているか。	- 課題等への取り組み状況、提出物の提出状況や内容。 - ペアワークやグループワーク等への参加に対する状況。
- 地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解できているか。 - 地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解できているか。	地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現できているか。	- 課題等への取り組み状況、提出物の提出状況や内容。 - ペアワークやグループワーク等への参加に対する状況。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	資料や統計をしっかり読み取った上で、学習内容の基本知識がしっかり身についている。	学習内容の基本事項が身についている。	学習内容の基本事項が身についていない。
②思考力 表現力	学習内容について、現状を捉えながら建設的な意見をしっかり考察し、表現できている。	学習内容について、自らの意見について考察し、表現できている。	学習内容に関する自らの意見を考察し、表現できない。
③学びに向かう力	ワークシートを実施する際に工夫の跡が見られ、ペアワーク・グループワーク時に建設的な意見を述べている。	ワークシート・ペアワーク・グループワークに意欲的に取り組んでいる。	ワークシート・ペアワーク・グループワークに意欲的に取り組むことができない

年間指導計画および各観点評価の基準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(基準)
				①	②	③	
4月 5月 6月	地図とGISの活用	- 緯度や経度についての基本知識や違いによる特徴 - 時差が発生するしくみと計算 - 様々な図法の違いと使用目的 - 国の範囲と現代世界の領土問題 - 日本の領域と領土問題 - 進む世界の結びつき(観光・貿易・地域連携)の動向 - GISの基本知識とその活用方法	18	○	○	○	- 学習に意欲的に取り組んでいるか【学びに向かう力】 - 調べ学習に積極的に取り組んでいるか【学びに向かう力】 - 現代世界の領土問題や日本の領土問題について、現状を捉えながら自らの考えをまとめ、表現できているか【思考力・表現力】 - 地図や地理情報システムについての目的や用途、適切な活用方法などを考察し、表現できているか【思考力・表現力】 - 時差の計算を正しく行えるか【知識・技能】 - 地図や地理情報システムの役割や有用性について理解し、収集する技能が身についているか【知識・技能】 - 各学習内容の基本知識が身についているか【知識・技能】
6月 7月 8月 9月 10月 11月	生活文化の多様性と国際理解	- 様々な地形の成り立ちとその地域の生活の特徴 - 様々な気候の成り立ちとそれぞれの気候による生活の違いの特徴 - 世界の農業の分類と農業の実例 - 世界の工業形態の分類と工業化が伸展した国の様子 - 様々な宗教の特徴と各宗教徒の生活の様子 - 多文化社会を実現する国の実例 - EU結成によるヨーロッパの産業や生活の変化と課題 - アメリカの変化と課題	40	○	○	○	- 学習に意欲的に取り組んでいるか【学びに向かう力】 - 調べ学習に積極的に取り組んでいるか【学びに向かう力】 - 地形や気候の違いによる世界の各地域の人々の生活の違いについて考察し、表現できているか【思考力・表現力】 - 様々な宗教や文化の違いについて捉えながら、共生するための方策について考察し、表現できているか【思考力・表現力】 - 資料や統計をもとに、EUやアメリカの現状や課題について捉えることができるか【知識・技能】 - 各学習内容の基本知識が身についているか【知識・技能】
12月 1月 2月 3月	地球的課題と国際協力	- 人口食料問題の現状・対策・課題 - 都市居住問題の現状・対策・課題 - 事件エネルギー問題の現状・対策・課題 - 様々な環境問題の現状・対策・課題	12	○	○	○	- 学習に意欲的に取り組んでいるか【学びに向かう力】 - 調べ学習に積極的に取り組んでいるか【学びに向かう力】 - 様々な地球的課題とその対策について考察し、表現できている【思考力・表現力】 - 資料や統計をもとに、様々な地球的課題の現状について捉えることができるか【知識・技能】 - 各学習内容の基本知識が身についているか【知識・技能】

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
地理歴史科	歴史総合	2単位	1年次	必修
教科書	高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来(第一学習社)			
副教材等	使用無し			
① 科目の目標(学習指導要領)				
(1)	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な 視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。			
(2)	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする 力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
(3)	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を 主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や 他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
近代化の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視点から捉え、現代的な課題の形成に関わる近現代の歴史を深く理解しており、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時代や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史上の課題を把握し解決に向けて構想したり、考察・構想したことを様々な方法で効果的に説明したり、それらを元に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、未来を担う者としての自覚を持ち、よりよい社会の実現のために課題を主体的に追究・解決しようとしている。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	学習内容を十分に理解し、教師等他者の助言や仲間との協議を経ながら意欲的に課題に取り組むことができる	学習内容の基礎・基本となる点を理解し、教師等他者の指導のもと、課題に取り組むことができる	学習内容の基礎・基本となる点を十分理解できず、課題への取り組みも消極的である。
②思考力 表現力	事象について多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて教師等他者の協力や仲間との協議を経ながら具体的に構想し、考察・構想したことを根拠を示しながら方法を工夫して効果的に説明したり、それらを元に議論したりすることができる	事象について多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて教師等他者の支援を得ながら構想し、考察・構想したことを説明したり、それらを元に議論したりすることができる	事象について多面的・多角的に考察することができず、教師等他者の支援を得ても、考察・考察したことを説明したり、それらを元に議論することができない
③学びに向かう力	諸事象について、教師等他者の協力や仲間との協議を経ながら、よりよい社会の実現を目指し、課題を主体的に追究・解決しようとするとともに、自らの学習を振り返り、改善点を把握し、次の学習につなげようとしている	諸事象について、教師等他者の支援を得ながら、課題を主体的に追究・解決しようとしている	諸事象について、教師等他者の支援を得ても、課題を主体的に追究・解決しようとすることができない

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4 5	A 歴史の扉 B 近代化と私たち	歴史と私たち 歴史と資料 近代化への問い 18世紀までの社会	8	○	○		私たちの生活と歴史が繋がっていることを理解している【知識・技能】 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。【知識・技能】 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。【思・判・表】 18世紀までの社会の様子について理解している【知識・技能】
6 7	B 近代化と私たち	工業化と世界市場の形成 国民国家と立憲体制 帝国主義とアジア・アフリカの変容 近代化に関する現代的な事象	15	○	○	○	工業化と世界市場の形成、国民国家と立憲体制、帝国主義とアジア・アフリカの変容について理解している。【知識・技能】 工業化と世界市場の形成、国民国家と立憲体制、帝国主義とアジア・アフリカの変容について多面的・多角的に考察し、表現している。【思・判・表】 近代化に伴う生活や社会の変容及び現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について、課題を主体的に追究しようとしている。【態度】 自らの学習を振り返り、改善点を把握し、次の学習に繋げようとしている。【態度】
8 9 10	C 国際秩序の変化 や大衆化と私たち	国際秩序の変化や大衆化への問い 第一次世界大戦と国際社会 1920年代の世界と大衆の時代の到来 国際協調の挫折と二度目の世界大戦 世界大戦がもたらしたもの	19	○	○	○	国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。【思・判・表】 第一次世界大戦と国際社会、1920年代の世界と大衆の時代の到来などについて理解している。【知識・技能】 第一次世界大戦と国際社会、1920年代の世界と大衆の時代の到来などについて多面的・多角的に考察し、表現している。【思・判・表】 自らの学習を振り返り、改善点を把握し、次の学習に繋げようとしている。【態度】
11 12	C 国際秩序の変化 や大衆化と私たち D グローバル化と私たち	世界大戦がもたらしたもの 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 グローバル化への問い 冷戦と国際政治 世界経済の拡大と日本	15	○	○	○	国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容及び・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について、課題を主体的に追究しようとしている。【態度】 自らの学習を振り返り、改善点を把握し、次の学習に繋げようとしている。【態度】 グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。【思・判・表】 冷戦と国際政治、世界経済の拡大と日本について理解している。【知識・技能】 市場経済の変容と冷戦の終結、冷戦終結後の世界について理解している。【知識・理解】 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。グローバル化に伴う生活や社会の変容について、課題を主体的に追究しようとしている。【態度】 持続可能な社会の実現を視野に入れ、課題を主体的に追究、解決しようとしている。【態度】
1 2 3	D グローバル化と私たち	市場経済の変容と冷戦の終結 冷戦終結後の世界 現代の諸課題とグローバル化	13	○	○	○	

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	
理科	物理基礎	2単位	1年次	必修	
教科書	高校物理基礎(7実教-物基704)				
副教材等	ベストフィット物理基礎(実教出版)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。					
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
運動についての観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	運動について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	物体の運動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
波についての観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	波について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	波に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
電気についての観察、実験などを通して、物質と電気抵抗、電気の利用について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	電気について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	電気に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
さまざまなエネルギーの特性や利用、放射線の種類や性質、放射性物質の基本的な性質について理解している。	さまざまなエネルギーの特性や利用、放射線の種類や性質、放射性物質の基本的な性質について、問題を見いだし、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	エネルギーとその利用に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	実験結果を観察し、物理現象について理解し、物理量について正しく説明することができる。	物理現象について正しく理解している。	物理現象について正しく理解することができない。
②思考力 表現力	身の回りで観察できる例をあげて、式を用いて表現できる。	物理現象について正しく表現することができる。	物理現象について正しく表現することができない。
③学びに向かう力	自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。	身の回りの現象と関連付けたり、理解しようとする態度が見られる。	理解しようとする態度が見られない。

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4 5 6	物体の運動	・物体の運動 ・等加速度直線運動 ・力と運動 ・運動の法則	17	○	○	○	・実験結果を観察し、物理現象について理解し、物理量について正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、式を用いて表現できる。 【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】
7 8 9	物体の運動	・運動方程式 ・仕事 ・力学的エネルギー ・熱	18	○	○	○	・実験結果を観察し、物理現象について理解し、物理量について正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、式を用いて表現できる。 【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】
10 11 12	波	・波とは ・音波	18	○	○	○	・実験結果を観察し、物理現象について理解し、物理量について正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、式を用いて表現できる。 【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】
1 2 3	電気	・電気とエネルギー	17	○	○	○	・実験結果を観察し、物理現象について理解し、物理量について正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、式を用いて表現できる。 【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
理科	生物基礎	2単位	1年次	必修
教科書	生物基礎(104数研_生基707)			
副教材等	リードLight 生物基礎 新課程(数研出版)			
① 科目の目標(学習指導要領)				
(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。				
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
生物の特徴・遺伝子について、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物の特徴・遺伝子について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。	生物の特徴・遺伝子に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
神経系と内分泌系による調節・免疫について、情報の伝達、体内環境の維持の仕組みの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	神経系と内分泌系による調節・免疫について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節の特徴を見いだして表現している。	神経系と内分泌系による調節・免疫に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
植生と遷移・生態系について、基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	植生と遷移・生態系について、観察、実験などを通して探究し、植生と環境との関係性を見いだして表現している。	植生と遷移・生態系に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	実験結果を観察し、生物現象について理解し、正しく説明することができる。	生物現象について正しく理解することができる。	生物現象について、正しく理解することができない。
②思考力 表現力	身の回りで観察できる例をあげて、用語を用いて表現できる。	生物現象について正しく表現することができる。	生物現象について正しく表現することができない。
③学びに向かう力	自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。	身の周りの現象と関連付けたり、理解しようとする態度が見られる。	理解しようとする態度が見られない。

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4 5 6 7	生物の特徴	・生物の特徴 ・遺伝子とその働き	23	○	○	○	・実験結果を観察し、生物現象について理解し、正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、用語を用いて表現できる。【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】
8 9 10 11	ヒトの体の調節	・神経系と内分泌系による調節 ・免疫	24	○	○	○	・実験結果を観察し、生物現象について理解し、正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、用語を用いて表現できる。【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】
12 1 2 3	生物の多様性と生態系	・植生と遷移 ・生態系とその保全	23	○	○	○	・実験結果を観察し、生物現象について理解し、正しく理解することができる。【知識技能】 ・身の回りで観察できる例をあげて、用語を用いて表現できる。【思考力・表現力】 ・自らから興味を持ち、身の周りの現象と関連付けたり、意欲的に解明しようとする態度が見られる。【学びに向かう力】

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
英語	英語コミュニケーションⅠ	3単位	1年次	必修
教科書	Grove English CommunicationⅠ(文英堂)			
副教材等	Grove English CommunicationⅠ FILL-IN NOTEBOOK 授業ノート(文英堂) 英単語ターゲット1400(旺文社) リスニング問題集ALL EARS BASIC(美誠社)			
① 科目の目標(学習指導要領)				
英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	音声、語彙、表現、文法、言語の働きなど十分理解している。	音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどある程度理解している。	音声、語彙、表現、文法、言語の働きなど理解できていない。
②思考力 表現力	コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を十分身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力がある程度身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けていない。
③学びに向かう力	主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を十分に付けている。	主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度がある程度身に付けている。	主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていない。

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4	オリエンテーション Lesson 1 Communication with People Around the World	主語と述部 / 「S+V」 / 「S+V+O」 / 現在・過去・未来を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・日常表現におけるしぐさについて知る。 ・よいコミュニケーションのために何が必要であるかを理解する。 ・コミュニケーションについて意見を交換したり、説明したりする。
5	Lesson 2 Pets and Humans: Together Through Time	名詞句 / to不定詞(名詞的用法) / 動名詞を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・人気のあるペットについて知る。 ・長い歴史における人間とペットの関係の変化について理解する。 ・ペットや動物について意見を交換する。
6	Lesson 3 Musubi-Ties and Knots	「S+V+O1+O2」 / 「S+V+O+C」 / 進行形を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・日常のさまざまなシーンにおける結びについて知る。 ・古来、日本人が結びに込めたさまざまな願いについて理解する。 ・結びについて意見を交換したり、意味を説明したりする。
7	Lesson 4 The power of Mushrooms	現在完了形 / 過去完了形 / 「S+V+O (=that節)」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・キノコを用いたいろいろな料理について知る。 ・自然界においてキノコが果たす役割について理解する。 ・日本の森やキノコなどについて意見を交換する。
9	Lesson 5 Braille Neue: Connecting Dots with Lines	受け身 / 分詞の形容詞的用法 / 助動詞を含む受け身 / to不定詞(形容詞的用法)を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・日常生活で見られる点字等の工夫について知る。 ・点字とデザインについて読み取る。 ・デザインについて意見を交換したり、インタビューに答えたりする。
10	Lesson 6 Is This Meat Real or Fake?	関係代名詞(主格) / to不定詞(副詞的用法) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・日本人の好きな代表的な料理について知る。 ・食糧問題・環境問題を解決するために代替肉の果たす役割について理解する。 ・食料品生産の新しい技術について意見を交換したり、インタビューに答えたりする。
11	Lesson 7 Plastic Polluting Our Oceans	比較 / 「It is+〜 (for〜) + to不定詞」 / 「S+V+O1+O2 (=that節)」 / 「S+V+O+to不定詞」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・日本のペットボトルの年間出荷本数の推移について知る。 ・プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響について理解する。 ・プラスチックごみが環境に与える影響について意見を交換する。
12	Lesson 8 Manga: A Global Hit!	「S+V+O+ C(=原形不定詞)」 / 「It is+形容詞[名詞]+that節」 / 「S+V+O(=疑問詞節など)」 / 「S+V+O+C(=現在分詞)」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・マンガで用いられる独特な表現について知る。 ・世界に広がる日本のマンガ文化について理解する。 ・マンガについて意見を交換したり、会話したりする。
1	Lesson 9 The Mysteries and Secrets of Petra	関係副詞(when, where) / 関係副詞(why, how) / 仮定法過去 / 完了進行形を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・諸外国の文化の側面を知る。 ・ペトラ遺跡の歴史・文化について理解する。 ・ペトラ遺跡の謎について意見を交換する。
2	Lesson 10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	仮定法過去完了/強調構文 / 分詞構文 / 「S+V+O1+O2(=疑問詞節など)」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	10	○	○	○	・家庭からの二酸化炭素排出量の内訳を知る。 ・グレタ・トゥーンベリさんの行動と主張について理解する。 ・環境を守るための活動などについて意見を交換する。
3	For Reading Hairspray		5	○	○	○	・1960年代当時の高校生のようなすを知る。 ・物語における登場人物たちの役割を理解する。 ・物語の展開と結末を理解する。 ・長い英文を読むことに慣れる。

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	
外国語	論理・表現Ⅰ	2単位	1年次	必修	
教科書	EARTHRISE English Logic and ExpressionⅠ Standard				
副教材等	EARTHRISE English Logic and ExpressionⅠ Standard ワークブック				
	EARTHRISE English Logic and ExpressionⅠ Standard 活用ノート				
① 科目の目標(学習指導要領)					
スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、一つの段落の文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うこと					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
主張をその理由や根拠とともに分かりやすく話したり書いたりすることであるが、「話すこと」における、相手の理解や賛同を得るために話すスピーチやプレゼンテーションと、更に自らの主張を相手の主張と対比させながら相手や聴衆を説得しようとするディベート、相手とのやり取りを通して課題解決などを旨とするディスカッションでは、それぞれに適した論理の構成や展開があり、目的や場面、状況などに応じてこれらを活用できるようになる	日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現する	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動をやろうとする
自分の過去の経験についてまとまった内容を相手に伝える場合には、叙述文を用いることが多い。一方、客観的な事実や情報を伝える場合には、要点を目的に応じた項目立てをしながら相手に分かりやすいように整理し、概念の定義や具体例などを適宜添えながら情報を詳細に伝える説明文を多く用いることができるようになる	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを伝え合う	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える短いスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動をやろうとする
「話すこと[発表]」であれば、相手の注意をひきつけ、論点を明確にするための表現やキーワードとなるような表現を繰り返すことなどが有効である。一方、「話すこと[やり取り]」では、より具体的な内容について相手と双方向で情報交換をするため、自分の経験や意見を述べるだけではなく、相手の言うことを確認する、賛成・反対を表明する、反論するなどの表現を効果的に使えるようになる	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合う	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動をやろうとする
叙述文は一人称が用いられることが多いが、説明文や論証文では客観性を重んじるため第三人称が好まれる傾向がある。叙述文は時間軸に沿った表現を多用するので、過去形や時を表す副詞節や副詞表現などを使えるようになる	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合う	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動をやろうとする

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	適切な発音で、語彙・文法・表現を正しく使って話し、書くことが十分にできる	適切な発音で、語彙・文法・表現を正しく使って話し、書くことがほぼできる	適切な発音で、語彙・文法・表現を正しく使って話し、書くことができない
②思考力 表現力	相手に適切に質問や応答をし、論理的に自分の考えを十分に書くことができる	相手に適切に質問や応答をし、論理的に自分の考えをほぼ書くことができる	相手に適切に質問や応答をし、論理的に自分の考えを書くことができない
③学びに向かう力	ペアワークにおいて、自分の考えを伝えたり書いたりすることができ、相手の考えを積極的に引き出そうとすることができる	ペアワークにおいて、自分の考えを伝えたり書いたりすることができ、相手の考えを少しではあるが、引き出そうとすることができる	ペアワークにおいて、自分の考えを伝えたり書いたりすることができず、相手の考えを積極的に引き出そうとすることがない

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
通年	ワークや活用ノート演習	・問題を読んで解答し、構成、展開、要旨などを的確にとらえる ・語句の意味、用法を的確に理解する	70	○	○	○	積極的にペアワークやグループワークに参加しているか。問題集や活用ノートに真摯に取り組んでいる。【学びに向かう力】 設問に対して適確に解答を作成できる。【知識・技能】 発表等に備え、協力して準備等をおこなっているか。【思考力・表現力】
	Lesson1 Lesson2 Lesson3 Lesson4 Lesson5	説明・紹介する 時を表す(現在・過去・未来) 時を表す(完了形) 能力・許可・義務などを表す 依頼・勧誘や推量などを表す	20	○	○	○	積極的にペアワークやグループワークに参加しているか。問題集や活用ノートに真摯に取り組んでいる。【学びに向かう力】 設問に対して適確に解答を作成できる。【知識・技能】 発表等に備え、協力して準備等をおこなっているか。【思考力・表現力】
	Lesson6 Lesson7 Lesson8 Lesson9 Lesson10	「～される」を表す 「～すること」などを表す(to do) to do/doを使って表す 「～すること」を表す(doin) doing/doneを使って説明する(1)	20	○	○	○	積極的にペアワークやグループワークに参加しているか。問題集や活用ノートに真摯に取り組んでいる。【学びに向かう力】 設問に対して適確に解答を作成できる。【知識・技能】 発表等に備え、協力して準備等をおこなっているか。【思考力・表現力】
	Lesson11 Lesson12 Lesson13 Lesson14 Lesson15	doing/doneを使って説明する(2) admire most? 人や物について説明する(who, which)時や場所などについて説明する 比較を表す 仮定を表す	20	○	○	○	積極的にペアワークやグループワークに参加しているか。問題集や活用ノートに真摯に取り組んでいる。【学びに向かう力】 設問に対して適確に解答を作成できる。【知識・技能】 発表等に備え、協力して準備等をおこなっているか。【思考力・表現力】
	パラグラフ・ライティングの基本 ディベートの進め方 ディスカッションの進め方	英語のパラグラフの構成 ディベートの流れ、ディベートでよく使われる表現 ディスカッションの流れ、ディスカッションでよく使われる表現	10			○	ディベートの流れを理解し、相手に適切に質問や応答をし、論理的に自分の考えを伝えることができるか。【学びに向かう力】 ディスカッションの流れを理解し、相手に適切に質問や応答をし、論理的に自分の考えを伝えることができるか。【学びに向かう力】

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
保健体育	体育	3単位	1年次	必修
教科書	現代高等保健体育(50 大修館 保体701)			
副教材等				
① 科目の目標(学習指導要領)				
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、夢をみる、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
それぞれの技術の名称と動きのポイント、戦術の特徴を理解しているか。	集団や自己の動きを分析して、良い点や修正点などを出せるか。	フェアプレーを大切にし、安全に練習したりゲーム等を行うことができたか。
それぞれの役割に応じた身体及び道具の操作をすることができるか。	課題解決の過程を踏まえて、集団や自己の新たな課題を発見することができるか。	練習やゲーム等に主体的に取り組む、仲間との信頼関係を深め、互いに助けあい高め合うことができたか。
フォーメーションや戦術を学び、ゲーム等を行うことができるか。	個人あるいは仲間とともにスポーツを楽しむための調整の仕方を見つけることができたか。	用具の準備や後片付け、審判などの役割を主体的に行い、責任を果たすことができたか。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記項目を3つ全て達成した。	上記項目を1つ以上達成した。	上記項目を達成できなかった。
②思考力 表現力	上記項目を3つ全て達成した。	上記項目を1つ以上達成した。	上記項目を達成できなかった。
③学びに向かう力	上記項目を3つ全て達成した。	上記項目を1つ以上達成した。	上記項目を達成できなかった。

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4	オリエンテーション 体づくり運動(男女) 集団行動(男女) 体育理論(男女)	授業の心得 筋力トレーニング、ストレッチング 陣列変換、行進 スポーツの始まりと変遷、文化としてのスポーツ	1 3 3 2	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	授業に関するルールについての説明、話しを聞く態度。 体力テストに活かせるよう強度を段階的に上げていけるか。 基礎技術を学び、全体の中で活かせるか。 スポーツをする、みる、支える、知るることについて、グループワーク等で深く学ぼうとしているか。(小テスト)
5	体力テスト(男女) マット運動(男子) ダンス(女子)	腕力、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、上体おこし、50m走、持久走、ボール投げ 前転、後転、開脚後転、伸腿前転、ロングダート 創作ダンス	5 14	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	正しい測定方法で実施しているか、周りと協力しているか。 基礎点と応用点を理解して、技の向上に努めているか。 班で協力し、ダンスを完成させようとしているか。
6	サッカー(男子) バスケットボール(女子)	パス、トラップ、シュート、切り返し、ミニゲーム、ゲーム パス、ランニングパス、ミドルシュート、レイアップシュート、ゲーム	2	○ ○	○ ○	○ ○	基礎技術を大切にし、チームで戦術を立てるなどに協力しているか。 準備や後片付けを協力し、基礎技術の習得に努力しているか。
7 8	サッカー(男子) バスケットボール(女子)		12	○ ○	○ ○	○ ○	
9	バスケットボール(男子) マット運動(女子)	パス、ランニングパス、ミドルシュート、レイアップシュート、ゲーム 前転、後転、開脚後転、伸腿前転、ロングダート	12	○ ○	○ ○	○ ○	準備や後片付けを協力し、基礎技術の習得に努力しているか。 基礎点と応用点を理解して、技の向上に努めているか。
10	バスケットボール(男子) マット運動(女子)		2	○ ○	○ ○	○ ○	
11	柔道(男子) バドミントン(女子) 体育理論(男女)	受け身、固め技、立ち技 ハイグリアー、ヘアピン、ブッシュ、スマッシュ、サーブ、ゲーム オリンピックとパラリンピックの意義、スポーツが経済に及ぼす効果	14 2	○ ○	○ ○	○ ○	安全に配慮し、技の習得に主体的に取り組んでいるか。 準備や後片付け、相手を敬う気持ちを大切にしているか。 オリンピックやパラリンピックの歴史や意義について考察するとともにスポーツの波及効果について説明できるか。(板書、小テスト)
12	バスケットボール(男女)		9	○	○	○	ゲームの中で役割を見つて主体的に動いているか。
1 2	スキー(男女) 体力テスト(男女)	ブルーク、シュテム、ずらしのターン、カービングターン、総合滑走 腕力、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、上体おこし、50m走、持久走、ボール投げ	18 4	○ ○	○ ○	○ ○	安全に配慮し、自分の技術に合わせた痛手を心がけているか。
3	体育理論(男女)	スポーツの高潔さとドーピング、スポーツと環境	2	○	○	○	ドーピング問題について理解し、スポーツを行ううえで大切な環境について深く考えることができたか。(板書、小テスト)

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
保健体育	保健	1単位	1年次	必修
教科書	現代高等保健体育(50 大修館 保体701)			
副教材等				
① 科目の目標(学習指導要領)				
1単元 健康の考え方、現代の感染症とその予防、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、精神疾患の予防と回復について理解を深める。				
2単元 安全な社会づくり、応急手当について理解するとともに、課題を見つけ、その解決に向けて考え、表現できるようにする。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
個人生活および社会生活における健康・安全に関する諸問題について理解し、技能を習得しているか。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題を見つけ、その解決をめざして適切な方法や解決方法を考え、表現しているか。	個人生活や社会生活における健康・安全について関心をもち、学習に進んで取り組んでいるか。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	学習項目の85%以上	学習項目の60%以上	—
②思考力 表現力	各検査等の85%以上	各検査等の60%以上	—
③学びに向かう力	授業等への参加80%以上	授業等への参加60%以上	—

年間指導計画および各観点評価の基準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目	評価のポイント(基準)
				① ② ③	
4	1単元	わが国の現在の健康水準や健康問題の変化、および今日の健康課題について学ぶ、健康の成立要因をふまえて、自分なりの健康の捉え方について考える。	2	○ ○ ○	WHO憲章や生きがいを重視した健康の考え方の例をあげることができる。
5	2私たちの健康のすがた		2	○ ○ ○	主体要因と環境要因を具体的にあげて説明している。
6	3生活習慣病の予防と回復	生活習慣病の種類とその要因について学ぶとともに、予防、早期発見、個人や社会の対策について考える。	2	○ ○ ○	わが国の健康水準の変化を説明し、健康問題の変化と新たな健康問題をあげ、それら原因について説明している。
6	4がんの原因と予防	がんの死因の第1位となっているがんについて、その種類、原因、予防、治療について学ぶとともに、社会的対策の現状と必要性について考える。	2	○ ○ ○	代表的な生活習慣病の種類をあげ、一次予防、二次予防が何か説明できる。
6	5がんの治療と回復		2	○ ○ ○	代表的ながんの種類をあげ、がんの標準治療の種類とその特徴、緩和ケアの目的について説明している。
7	6運動と健康	運動、食事、休養・睡眠といった生活習慣が、生活習慣病の予防をはじめ、健康の保持増進に大きく関連していることを学ぶとともに、人々が適切なライフスタイルを身につけるための対策を考える。	1	○ ○ ○	がん検診の普及や情報サービスなどについて説明している。
7	7食事と健康		1	○ ○ ○	運動の重要性や課題について理解し、運動の種類や強度による運動の効果とその適切な行い方を説明している。
7	8休養・睡眠と健康		1	○ ○ ○	食事の重要性と不適切な食事による健康問題について理解し、バランスのよい食事と規則的に食事をとることについて説明している。
8	9喫煙と健康	喫煙、飲酒、薬物乱用が心身にもたらす健康問題と社会問題について学ぶとともに、それらの問題を改善するための、個人や社会の対策について考える。	2	○ ○ ○	休養の重要性を認識し、睡眠の重要な働きと健康によい睡眠のとり方を具体的に説明している。
9	10飲酒と健康		1	○ ○ ○	喫煙者の悪影響と受動喫煙の害について理解し、喫煙の開始・継続要因と個人と社会環境への対策を説明している。
9	11薬物乱用と健康		2	○ ○ ○	飲酒による短期と長期的健康影響を理解し、飲酒の開始要因を踏まえ、個人と社会環境への対策を説明している。
10	12精神疾患の特徴	おもな精神疾患と要因、予防と治療、また精神保健の今日的課題について学ぶとともに、精神疾患の適切なケアのための社会環境について考える。	1	○ ○ ○	薬物乱用が心身に及ぼす影響と社会影響を理解し、薬物乱用の開始要因と個人と社会環境への対策を説明している。
10	13精神疾患の予防		1	○ ○ ○	精神疾患の発病の要因と特徴的な症状を説明し、精神疾患の罹患者の特徴や多様化している課題をあげている。
10	14精神疾患からの回復		1	○ ○ ○	精神疾患を予防する方法を説明し、早期発見のために必要なことを具体的にあげて説明している。
11	15現代の感染症	新興感染症や再興感染症といった現代の感染症の現状と今日的課題、予防対策について学ぶ。また性感染症・エイズの現状と課題について、日本および世界の現状を学ぶ。また感染症予防について、個人や社会の対策について考える。	2	○ ○ ○	精神疾患の治療や支援の方法を説明し、適切な治療や回復のために必要な社会環境について説明している。
12	16感染症の予防		2	○ ○ ○	感染症とは潜伏期間があったり、病原体によって感染力に強弱があったりすることを説明している。
12	17性感染症・エイズとその予防		2	○ ○ ○	新興感染症と再興感染症を理解し、予防対策を3原則から説明している。
1	18健康に関する意思決定・行動選択	健康の保持増進のための意思決定・行動選択の重要性と影響する要因について学び、よりよい意思決定・行動選択の方法や工夫の仕方について学ぶ。また健康づくりには、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりが重要であることを学ぶ。	1	○ ○ ○	感染症に対して個人と社会全体が行う対策を説明している。
1	19健康に関する環境づくり		1	○ ○ ○	性感染症・エイズの感染経路や治療法について他の感染症と比較しながらその違いを説明し、個人の行動と社会の対策について例をあげている。
2	2単元	わが国の不慮の事故の実態と事故発生に関連する要因について学ぶとともに、安全な社会を形成するための個人や社会の対策について考える。また、交通事故の防止の観点から、運転者の責任、個人や社会の対策等について考える。	1	○ ○ ○	意思決定・行動選択の個人的要因と社会的要因を説明し、適切な意思決定・行動選択を説明している。
2	2安全な社会の形成		1	○ ○ ○	自然環境、政策や制度、地域活動などの社会環境と健康との関連の例をあげて、その影響を説明している。
2	3交通における安全		1	○ ○ ○	ヘルスプロモーションの考え方とそれにもとづく環境づくりの特徴について説明している。
3	4応急手当の意義とその基本	けがや急病に対する応急手当の意義や方法について学び、日常的な応急手当ができるようにする。また、心肺停止状態の人の命を救うために行う心肺蘇生法の意義と方法を学び、実習を通して正しく実施できるようにする。	1	○ ○ ○	事故の実態について具体的に説明し、人的要因と環境要因に関連していることを説明している。
3	5日常的な応急手当		1	○ ○ ○	危険予測や危険回避など個人の行動を説明し、法律や条例の整備などの説明をしている。
3	6心肺蘇生法		1	○ ○ ○	個人の適切な行動と交通環境の整備について説明し、刑事上、民事上、行政上のそれぞれに分けて説明している。

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科 情報	科目 情報Ⅰ	単位数 2単位	開設年次 1年次	選択群 必修	
教科書	最新情報Ⅰ				
副教材等	最新情報Ⅰ学習ノート				
① 科目の目標(学習指導要領)					
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用 参画するための資質・能力を育成することを目指す。					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
情報に関する科学的な見方・考え方を理解し、問題の発見・解決する能力を身につけている。	収集した情報を科学的に判断し、適切な情報発信する重要性を理解している。	課題等への取り組み 提出状況
問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する能力を身につけている。	問題解決に向けた方法、対策に至る方法を的確に理解し、実践する方法を理解している。	授業の予習や準備に対する取り組み
情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身につけている。	情報の取り扱いの重要性を理解し、的確に情報の収集・発信する方法の重要性を理解している。	グループワークやペアワーク等への積極的な取り組み

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	各検査等状況の80%以上	各検査等状況の30%以上	各検査等状況の30%以下
②思考力 表現力	各活動内容の80%以上	各活動内容の30%以上	各活動内容の30%以下
③学びに向かう力	提出物状況・授業への参加 80%以上	提出物状況・授業への参加30%以上	提出物状況・授業への参加30%以下

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4	情報社会	・ 情報社会	15	○	○	○	情報社会の現状についての理解 情報の特性についての理解 情報モラルについての理解
5		・ 情報社会の法規と権利 ・ 情報技術が築く新しい社会		○	○	○	知的財産権・著作権に津に関する法規の理解 社会の中の情報活用の理解
6	情報デザイン	・メディアとコミュニケーション	15	○	○	○	メディアの発達・特性についての理解 コミュニケーションの形態理解
7		・情報デザイン		○	○	○	社会の中の情報デザイン 情報デザインの工夫
8		・情報デザインの実践		○	○	○	文書作成
9	デジタル化	・情報システムの構成	15	○	○	○	コンピュータの構成の理解 ソフトウェアの理解 システム構成の理解
10		・情報のデジタル化		○	○	○	アナログとデジタルの理解 2進数・16進数の理解 数値と文字の表現の理解 数値の計算方法の理解
11							静止画・動画・情報量の理解
12	ネットワーク	・ネットワークの構成	15	○	○	○	ネットワークの構成の理解 ネットワークの利用に関する理解 データ転送についての理解
1		・情報セキュリティ		○	○	○	安全対策に対する理解 セキュリティに関する理解 情報を安全に取り扱いのための技術の理解
2	問題解決	・ 問題解決	10	○	○	○	問題解決の理解 解決案を決定するための理解
3							

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス案)

教科	科目	単位数	開設年次	選択群
芸術	音楽Ⅰ	2単位	1年次	芸術選択
教科書	Tutti+			
副教材等	MUSIC NOTE			
① 科目の目標(学習指導要領)				
音楽の諸活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
音楽についての基礎的な知識を習得すること。	音楽の歴史的・文化的背景を知覚し、生み出される音楽を感受すること	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
楽器演奏についての基礎的な技術を習得すること。	習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	生活の中で音楽を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
自ら感受したイメージや気持ちを、言葉で表すこと。	お互いの価値観や個性を認め、音楽の多様性を感じ取ること。	生涯をとらえて音楽を愛し、親しむ心を育む。
音楽の歴史的・文化的背景を理解すること。	鑑賞によって他者の良さを見つけ、自己の課題への創作意欲につなげられる。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4, 5月	歌唱 リズムアンサンブル 楽典 ソルフェージュ	校歌練習 歌唱(斉唱)、歌唱(合唱) 音部記号・調号・拍子記号 音符・休符について 音名の読み方・楽譜の読み方 長音階・短音階・和音・コードネーム	14	○	○	○	歌詞や音符、休符等の音楽記号、楽典についての理解ができているか
6~8月	器楽 テーブルパーカッション アンサンブル アルトリコーダー	クラッピング・カルテット CUPSを用いたグループアンサンブル 楽器分類学 基本奏法、楽曲演奏、アンサンブル	16	○	○	○	リズムを正しく演奏できているか 個性を生かしてグループ活動ができているか
9, 10月	クラシックギター	基本奏法、チューニング、コード、楽曲演奏	14	○	○	○	正しい運指で楽譜を楽曲やコードを演奏できているか
11~1月	鑑賞	西洋音楽史、日本音楽、ミュージカル等	14	○	○	○	様々な音楽や楽器、ジャンルについて理解できているか
2, 3月	創作 歌唱	DTMを使ったテーマソングづくり 卒業式に向けて	12	○	○	○	創作の内容を理解し、意欲的に取り組んでいるか 歌唱活動に積極的に参加できているか

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	
美術	美術 I	2単位	1年次	芸術選択	
教科書	美術1 光村				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
① 造形的な見方・考え方価値観意識・人間性					
② 美術における基礎的技能					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
美術 I における創造的な見方・考え方を働かせることができた。	造形的な見方・考え方を働かせた主題の生成ができた。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
造形や美術を捉える視点について美感的に理解を深めることができた。	創造的な表現の構想を練ることが出来た。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
創造的な美術を表現するために必要な技能を身につけることができた。	造形や美術、文化などについて自分の価値意識を持って捉えることができた。	表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を養うことができた。
意図に合わせた材料や用具を用いて、創意工夫した表現力を身につけることができた。	課題における意味や価値を作り出す力を養うことができた。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目の1つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4月	オリエンテーション	美術Ⅰの1年間の授業内容を理解する。授業に必要な道具等を確認する。	1	○	○	○	1年間の授業内容及び必要な道具の理解。
5月	鉛筆デッサン	鉛筆でグレースケール作成後、デッサンの基礎を学び材質や質感に注目し野菜や果物を描写する。	17	○	○	○	形を捉えることができているか。 観察力と質感の表現ができているか。 陰影表現ができているか。 丁寧に描写できているか。
6月							
7月	コラージュ	色画用紙を選択し、ペンで描いたクロッキー作品のコラージュをする。	6	○	○	○	色のバランスに気をつけて構成しているか。 自分なりの工夫をしているか。
8月	色彩について	色の3属性(色相・明度・彩度)の確認。色の特性について理解を深める。3原色で色相環を制作する。 絵の具の使い方・混色方法について理解する。	4	○	○	○	色の特性についての理解ができているか。
9月							
	デザイン (平面構成)	アクリル絵の具を用いて幾何形体による平面構成を行う。	12	○	○	○	色のバランス、グラデーション等の工夫ができているか。 入れるモチーフの配置や大きさを工夫しているか。 色・配置等全体のバランスが取れているか。
10月	エコバッグ制作	原寸大のアイデアスケッチをもとにシートに写し取り、カッターで切り取り型を作る。布用絵の具で混色し、エコバッグに刷る。	13	○	○	○	型が綺麗にできているか。 正しい配色になっているか。 丁寧にムラなく彩色しているか。 狙った色を再現できているか。 円と線のバランスを考え見やすい構図になっているか。
11月							
12月	組み合わせる(鑑賞)	『ジュゼッペアルテンボルド』と、『葛飾北斎』の作品を鑑賞し、それぞれの絵画の表現の工夫や、共通点について理解する。	1	○	○	○	それぞれの絵画の共通点について考察することが出来ているか。 作品についての考えを表現できているか。
	油絵の具の使い方	油絵の具の道具の使用方法について理解する。	1	○			油絵用具の名称と使い方の理解ができているか。
1月	油絵制作 (自画像)	油絵の具の特性を活かしながら、自分のイメージした自画像の制作をする。	15	○	○	○	量感の表現ができているか。 光と陰影の表現ができているか。 油絵の具の特性を掴み、自分なりに工夫しているか。 表情・質感の表現ができているか。 色の工夫や構図等全体のバランスが取れているか。
2月							
3月							

令和7年度 年間学習指導計画(シラバス)

教科 芸術	科目 書道Ⅰ	単位数 2単位	開設年次 1年次	選択群 芸術選択
教科書	書道Ⅰ（教育出版）			
副教材等	硬筆レッスン帳			
① 科目の目標（学習指導要領） 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
漢字文化についての基礎的な知識を習得すること。	古典の臨書にあたり、その作品の制作意図、時代背景、書者の人間性などに思いを巡らすこと。	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
書芸術についての基礎的な知識を習得すること。	臨書によって習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	読みやすく好感をもたれる文字を書こうとする意欲を持つ。
それぞれの古典作品の書法を習得・再現すること。	文字や書芸術の歴史を学ぶことで伝統や文化を尊重する心を育むこと。	生活の中で書芸術を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
意図に合わせた材料や用具を用いて創意工夫した表現力を身につける。	課題における意味や価値を作り出す力を養うこと。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価の規準

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4～7月	漢字の書	古典作品の臨書 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」 「牛嶺造像記」「鄭義下碑」 「蘭亭序」「風信帖」	24	○	○	○	筆の持ち方、基本的な用筆法を習得できたか。 それぞれの古典の用筆法と書風の特徴をつかみ再現できたか。
8～9月	篆刻	落款と印の歴史について学び、自分の名の印を制作する	10	○	○	○	印の歴史に興味・関心を持ち、作品における落款の重要性を理解できたか。 手順通りに作業が進められたか。 篆書に関心をもち、その歴史や用筆法を理解できたか。
10～11月	漢字の書の制作	好みの語句で創作をする	10	○	○	○	好みの語句に自分の思いや主張を託し、手本に頼らず制作できたか。
12月	生活の中の書	年賀状の制作 消しゴムはんこを作り、それを用いた年賀状を作る。筆記具は毛筆とする。	8	○	○	○	計画性を持って制作に臨むことができているか。 創意工夫をもって創作できたか。
1～2月	仮名の書	平仮名と片仮名の字源を知り、正しい形を学ぶ。平安朝の仮名作品を臨書する。	10	○	○	○	仮名文字の歴史に興味・関心を持ち、正しく臨書できたか。
2～3月	漢字仮名交じりの書	好みの詩文で創作する	8	○	○	○	テーマについて深く考察しているか。